

2009年度

科目名	比較教育学特講				
担当教員	開沼 太郎				
配当	専攻1		コード	24730	
開期	前期	講時	火曜日4限	単位数	2
授業テーマ	比較教育学の基礎概念や課題、研究方法を理解し、わが国の教育現象との比較を通して諸課題の把握を試みる。				
目的と概要	1、「比較行政学」とは何か、その目的や対象、意義について、具体的な比較プロセスを通じて理解を深める。 2、教育科学としての比較教育学研究の技法を概観し、科学的な視座の獲得を目指す。 3、わが国の教育制度や教育政策、教育改革の動向を、国際比較研究を通じて検討し、関係性を理解する。				
成績評価法	平常点(出席時の小テスト・小レポート):30%程度、課題演習(発表や提出):30%程度、試験:40%程度 を目安に総合評価を実施する。				
テキスト	講義時に指示する。 必要に応じて配付資料やオンライン資料などを利用する。				
参考書	講義時に適宜指示する。				
履修に当たっての注意・助言	授業では、コンピュータや携帯電話(情報端末)など、情報通信機器を積極的に活用する予定である。受講者には専門的な技術や知識は必要ないが、主体的かつ積極的な活用姿勢を望みたい。				
講義計画					
(01) ガイダンス本講義の概要について (02) 「比較教育学」とは比較教育学の概念、研究の目的、課題 など (03) 比較教育学の研究手法 ①主要な研究手法の紹介と解釈について (04) 比較教育学の研究手法 ②具体的な研究事例の検討と課題の把握 (05) 比較教育学研究の史的展開 比較教育研究の流れと現代の特徴について (06) 教育制度の国際比較諸外国の教育制度や教育方法、カリキュラムを概観する (07) 学校教育の国際比較国際比較を通じて、わが国の教育の性格や特徴を理解する (08) 教育行政の国際比較教育行政制度の比較を通じて、わが国の課題把握を試みる (09) 教育改革の国際比較今日のわが国の教育改革と国際的潮流との関係性について (10) 生涯学習体系の国際的動向「生涯学習」概念の成立と展開における国際的動向について (11) 社会の変化への対応と教育の国際比較 ①「少子高齢化社会」をめぐる国際間格差と教育的課題 (12) 社会の変化への対応と教育の国際比較 ②「国際化社会」と国際理解、教育や文化の交流について (13) 社会の変化への対応と教育の国際比較 ③「情報化社会」とICT教育の国際的動向の比較 (14) 比較教育学研究の実際現在の研究動向のレビュー、意見交換 など (15) まとめ本講義のまとめ					